

弘前城かわら版

Vol.4 [令和4年10月17日]

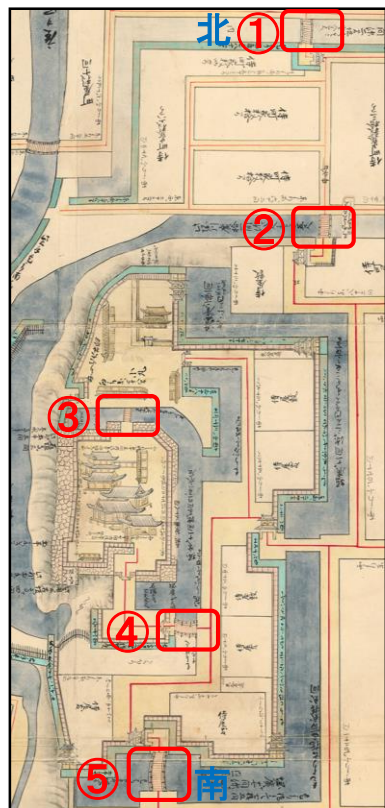
史跡 弘前城跡では、史跡内にある8橋の上部木材の更新工事を進めています。今号では、令和2年度に工事を終えた波祢橋（はねばし）・鷹丘橋（たかおかばし）・一陽橋（いちようばし）について特集します。

【弘前城内の橋】

弘前城跡では現在、8箇所にも木橋[ただし、橋脚はコンクリート]が架けられています。これらすべてが江戸時代から存在した訳ではありません。

弘前市立博物館に所蔵されている「津軽弘前城之絵図」は、正保2年<1645>の成立と考えられており、弘前城を描いた最古の絵図とされています。弘前城が築城された慶長16年<1611>から間もない頃に描かれたこの絵図には、5つの橋が描かれています【右図①～⑤】。

右図には、①亀甲橋（かめのこばし）[四の丸と城外を結ぶ橋]、②賀田橋（よしたばし）[三の丸と四の丸を結ぶ、二階堰（にかいぜき）にかかる橋]、③鷹丘橋（たかおかばし）[本丸と北の郭を結ぶ橋]、④下乗橋（げじょうばし）[二の丸と本丸を結ぶ橋]、⑤杉の大橋（すぎのおおはし）[二の丸と三の丸を結ぶ、中濠（なかぼり）にかかる橋]が、現在と同じ位置に描かれています。



【正保2年 津軽弘前城之絵図】
（弘前市立博物館所蔵）

1.波祢橋（はねばし）

創架：幕末<約160年前>
改修：令和3年<2021>



波祢橋は西の郭と四の丸を結ぶ、二階堰にかかる橋です。「津軽弘前城之絵図」には描かれていませんが、幕末には橋の名称が古文書に記されるようになります。幕末の橋の形状は不明ですが、昭和35年<1960>の写真を見ると【右写真】、この頃には親柱に色が塗られ、擬宝珠（ぎぼし）もあったようです。



【昭和35年の波祢橋親柱】

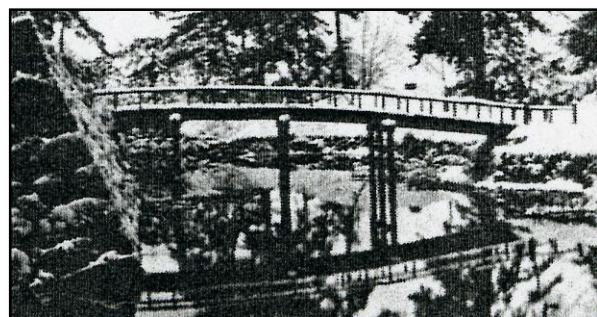
2.鷹丘橋（たかおかばし）

創架：江戸時代前期（約350年前）

改修：令和3年<2021>

鷹丘橋は本丸と北の郭を結ぶ、内濠にかかると橋です。「津軽弘前城之絵図」にも、同じ場所に木橋が描かれているほか、古文書には寛文10年<1670>3月に弘前藩4代藩主・津軽信政（つがるのぶまさ）が地形を見分の上、本丸より北の郭へ渡る橋を架け始め、同年5月9日に完成したと記されています。その後寛政4年<1792>、文化13年<1816>に架け替えの記事が見られますが、江戸時代の橋の形状については不明です。

鷹丘橋については、明治時代の古写真が複数残っており【右写真】、上の古写真と下の古写真では、写り込む橋の形状が異なることから、変遷が伺えます。上の写真は弘前公園開園前の状況と見られますが、橋の欄干に中段の横木はありません。一方で、明治28年<1895>の公園開園後に撮影された下の写真では、欄干の中段に横木があるほか、親柱に角材が用いられており、端には×型の筋違（すじかい）があります。いずれも、現在の鷹丘橋の形状とは異なるものです。



【明治時代の鷹丘橋 [公園開園前か]】



【明治28年<1895>以降の鷹丘橋】

3.一陽橋（いちようばし）

創架：昭和8年<1933>

改修：令和3年<2021>



一陽橋は四の丸と城外を結ぶ、外濠にかかると橋で、昭和7～8年の弘前新聞に設置の経緯が見られます。

昭和8年<1933>の渡橋式（渡り初め）で撮影された記念写真には、頂部を四角錐状に加工した角型の親柱が写っており【右写真】、現在と似た形状だったことがわかります。



【昭和8年<1933>の一陽橋】

【発行】弘前市都市整備部公園緑地課弘前城整備活用推進室

住所：青森県弘前市大字下白銀町1番地

電話：0172(33)8739 FAX:0172(33)8799 E-mail:kouen@city.hirosaki.lg.jp